平成23年度

東日本大震災支援事業実施報告書

はじめに …… 1

Ⅰ　主旨・目的 …… 2

Ⅱ　実施事業概要 …… 2

Ⅲ　実施報告書

　A　「被災営業者に対する支援」…… 3

　B　「被災営業者による炊き出し」 …… 5

平成24年3月

岩手県料理業生活衛生同業組合

はじめに

平成23年３月11日発生した東日本大震災における岩手県の被災状況は、大震災からほぼ１年が経過した３月９日現在（岩手県総務部調べ）死者・行方不明者5,920名、家屋倒壊数24,747棟、当岩手県料理業生活衛生同業組合員に於いては幸いなことに組合員、家族に死者・行方不明者は無いものの、店舗については沿岸部の組合員店５店舗とも津波により流出、住宅とも流出した３組合員は当初避難所生活でした。

また、内陸部に於いては３月11日の大地震、４月８日の大震災後最大の余震時の店舗への被害、また震災後の１、２か月店舗の修理、食材等の流通難など、通常営業がままならない期間があり、震災の被害は岩手県全域に及びました。

当初、通信手段もなく、被災沿岸部組合員との連絡が取れない状況のなか、㈶岩手県生活衛生営業指導センターから避難所での被災者の食生活の状態など、情報を得、「被災地へのお弁当支援事業」に内陸部の組合員店が参加しました。

そのようななか、徐々に沿岸部組合員との連絡が取れるようになり、組合員の被災状況を知るにつれ、避難所での生活、借入金の返済など、通信手段は携帯電話のみという状態のなか、内陸部からの情報提供が必至であると痛感し、支援をしていきたいとの思いがこの事業の取り組みの始まりでした。

６月から内陸部の組合員で検討を始め、「被災事業者に対する支援」の準備を始め、被災事業者に行政による被災者相談支援窓口の情報、中小企業基盤整備機構が進める仮設店舗の情報の提供を始めました。

７月に入り、被災組合員が仮設住宅に入居できたころから自立再建への意識の向上にむけ、「被災営業者による炊き出し」の準備も始めました。

東日本大震災の被災地は、具体的な町づくりの計画に長期間を要するところが多く、被災組合員の自立再建への道のりも遠く、また、地域住民の生活再建も５年、10年先となると思います。

このようななか、この「東日本大震災支援事業」も、継続した取り組みが必要であると強く感じております。

平成24年３月

岩手県料理業生活衛生同業組合

理事長　**細　川　正　二**

Ⅰ　趣旨・目的

３月11日に発生した東日本大震災により、岩手県では沿岸部の市町村を中心に壊滅的な被害が発生した。

被災地では、徐々にではあるが復興に向けた取り組みが進められているが、沿岸部の組合員は皆、津波により店舗流出という状況のなか、被災組合員の自立再建、被災地域、被災者の再生支援を図ることを目的とする。

Ⅱ　実施事業概要

１　被災営業者に対する支援

①　被災営業者の被害状況の調査
②　被災営業者が必要としている支援・情報の調査
③　被災営業者への仮設店舗・融資・税制等の復興支援情報の提供、相談会の開催
④　被災営業者の自立再建時の内陸部組合員、また全国連合会を通じての支援

２　被災営業者による炊き出し

①　被災地において被災営業者が中心となり、被害の少なかった内陸部の組合員も応援として参加し、炊き出しを行う
②　調理機材は主にレンタルとするが、一部本補助金にて購入し、本事業終了後も事業継続のため被災地域の支部に無償貸与する。

Ⅲ　実施報告書

A　「被災営業者に対する支援」

①　被災営業者の被害状況の調査

役員が被災地に出向き、直接被災組合員を訪問し、被災地、被災営業者の被害状況の聞き取り調査を行った。

当組合の沿岸地域の組合員は大船渡支部の４会員ですが、全員営業店舗は津波により流出の状況でした。

②　被災営業者が必要としている支援・情報の調査

初期の段階では携帯電話による聞き取り調査を行った。

役員が被災地に出向き、直接被災組合員を訪問し、聞き取り調査を行った。

被災営業者は、すべてを津波によりなくし、気力を失い廃業を考えるものもいました。

当初、避難所での生活であった被災営業者は、避難所の炊き出しを率先して行うなど、気力を失いながらも自ら自分たちの業を生かし地域に貢献していました。

避難所から仮設住宅での生活となってからもそれはつづいていました。

役員による聞き取り、相談会を重ね、廃業を考えていた被災営業者も自立復興を考えられるようになり気力を持ち直してきました。

③　被災営業者への仮設店舗・融資・税制等の復興支援情報の提供、相談会の開催

通信手段が携帯電話のみの状態では入手が困難な仮設店舗、二重債務、融資、税制等の復興支援情報を収集、提供するとともに、関係諸団体の協力を得て被災地で復興相談会・個別相談会を開催した。

その結果、現在、前営業地にて開業にたどりつけた者、県の利息補填による借入と日本政策金融公庫からの借入を申請中で開業をめざす者と自立再建の道を歩んでいます。

また、炊き出し事業にて訪れた地域で、今まで組合の存在を知らなかった被災営業者から相談を受け、新たに組合に加入し再建への意欲を持った方もいます。現在借入相談中です。

④　被災営業者の自立再建時の内陸部組合員、また全国連合会を通じての支援

内陸組合員と被災組合員が炊き出し事業を協力して行うことにより、料理業組合間の絆が強まるとともに、他の生衛業者に励まされ、事業再開の意欲を持った組合員が多くみられた。

全国大会に無料招待され、出席した組合員は全料連の連帯意識が高まった。

再開したお店

再開したお店の周辺（現状）

Ｂ　「被災営業者による炊き出し」

１．料理業組合と社交事業組合連携による被災地での炊出し支援事業

9月12日（月）大船渡市猪川町長洞「長洞応急仮設運動公園」

① **対　象　者**　　長洞仮設団地戸数　308戸

② **参加組合・事業内容**

料 理 業 組 合　　うな丼　400食、サンマの塩焼き　500匹を提供

社交事業組合　　カラオケバス　１台（大型貸切バスにカラオケ装置をセット）

③ **料理組合の参加者**　　被災組合員　４名とその家族

応援組合員　19名

④ **アンケート調査結果（被災者）**…回答194名

・男女別　男性30名　女性130名　不明34名

・年代別　10代　０名、20～30代　22名、40～50代　74名、60代以上　98名

・「普段の食事について」

自分で作る　146名、家族が作る　38名、宅配弁当利用　２名

・「食事のための買い物について」

自分で買う　78名、近所の人に頼む　２名、その他（生協利用）

⑤ **参加者の感想**

・食事の提供はうれしいのでまたお願いしたい。仮設住宅で周りの人と顔を合わせるチャンスなので仮設住宅での炊出しはありがたい

・まだ仕事についておらず、少しでも支援していただくと助かります

・感謝しています

・ありがたい

・**野菜を使ったお料理をお願いします**

・**今年うなぎを食べる機会がなかったのでうれしかったです**

・仮設住宅地内の住民どうしの交流がもてた

・**いろいろなイベントの開催があっても移動手段がなく参加できないでいたが、仮設住宅地での開催で参加できた**

・大変ありがたく思っています。本当にご苦労様です

・とても楽しく、うれしく思います

・楽しんだ。ありがとう。また来て欲しい。感謝します。の声多数

・炊き出しとカラオケは、最高の癒やしになり、震災のことを忘れることができてよかった。また来てほしい

・次に来るときは友達を誘ってきます。待っています
・**少しストレスが和らいだ気がします。久しぶりに震災を忘れる時間ができました**

⑥　参加者（生衛業者）の感想

・皆さんに喜んでもらえ、うれしい
・都合がつけば、また参加したい
・**喜んで食べていただいて、事業再開の意欲をいただきました**
・野菜不足の声を多く聞いた。うな丼につけた手作りの漬物が大変喜ばれた
・**今後は野菜を使った炊き出しを考えたいと思う**
・平日の事業だったので参加できる人が限られていた。休日にも開催できればなお良いと思った
・震災から半年がたっていて物資は充実してきていると思ったが、野菜、衣類など不足していることを現地に行って知った。物資の支援もできればなお良いと思った
・**仮設住宅地での開催を大変喜ばれた**

⑦　大船渡市の組合員情報

大船渡支部には、料理業組合員で被災者は４名いますが、うち３名は、店舗・住宅共全壊流出しました。１名は、店舗のみ全壊流出という状況です。

会場の長洞仮設団地周辺

料理業組合と社交事業組合スタッフなど

サンマの塩焼きの様子

カラオケバス

岩手日報　2011年（平成23年）9月13日（火曜日）　地域（26）

沿岸部

地域の話題・情報お寄せください
八戸支社 0178(43)1010
洋野支局 0194(69)1060
久慈支局 0194(53)3030
宮古支局 0193(62)1771
釜石支局 0193(23)5107
大船渡、陸前高田 0192(27)3070
住田支局

歌や食事　被災者激励

大船渡 2組合（盛岡）仮設で支援

盛岡市の県料理業生活衛生同業組合（細川正二理事長、組合員360人）と県社交事業生活衛生同業組合（西部邦彦理事長、組合員250人）は12日、大船渡市道川町の長洞仮設団地（308戸）を訪れ、炊き出しや「移動カラオケ」の支援活動を行った。

2組合の約30人が参加。うな丼400食のほか、料理業組合大船渡支部のメンバーとサンマの塩焼き500匹を入居者に振る舞った。社交事業組合による大型のマイクロバス1台を貸し切った「カラオケバス」も運行された。

サンマを受け取った後藤勝彦さん（70）は「新鮮な魚を食べることできず、本当にありがたい」と感謝していた。

2組合による被災地の支援活動は今回が初めて。料理業組合の岩館政明常務理事は「大船渡の同業者や被災者の方に、笑顔と元気を届けることができて良かった。今後も支援を続けていきたい」と力を込める。

サンマの塩焼きを受け取り笑顔を見せる入居者

２．福興応援団『暮らし再建・なりわい再生プロジェクト』への参加

『暮らし再建・なりわい再生プロジェクト』イン宮古市

岩手県内の生活衛生同業組合が、被災地支援事業として厚生労働省から認められた生活衛生関係営業対策事業の共同実施として、寿司・中華料理・料理業・飲食業等の飲食系組合の炊き出しや、興行組合の移動映画上映会、社交事業組合のカラオケバス事業、行政の被災者相談支援窓口開設・保健所の健康相談。栄養相談窓口を併設し、被災地支援を通じた被災営業者支援活動等に参加した。

11月21日（月）10：00～15：00（於：グリーンピア三陸みやこ）
主催：岩手県生活衛生同業組合宮古地区連絡協議会・岩手県沿岸広域振興局・宮古保健所

①　参加：被災者約600名・スタッフ116名（内被災組合員52名）・行政等5名

②　内容：

１．炊き出し　　参加者数：600名（206名からアンケート回収）
　ラーメン　（中華料理生衛組合）：500食提供
　す　　し　（すし生衛組合）：600食提供
　カニクリームコロッケ　（料理業生衛組合）：330食提供

２．移動映画（興行生衛組合）
　「武士の家計簿」を上映
　観客数：100名（41名からアンケート回収）

３．カラオケ（社交事業生衛組合）
　大型カラオケバス２台参加
　利用者：58名

４．相談窓口開設（宮古保健所、栄養士会沿岸支部等）
　相談内容：健康、栄養、経営等

５．頭と肩のマッサージ提供（理容生衛組合）
６．宮古市在住組合員への支援ＰＲ（理容生衛組合・美容業生衛組合）

③　アンケート調査結果

『炊き出し』関係……回答206名
　男女別　　男性　44名（24％）、女性138名（76％）、不明　24名

年代別　　10代未満　２名（１％）、20代～30代　19名（10％）
　　40代～50代　54名（28％）、　60代以上　116名（61％）
ラーメン　　うまい　170名（89％）、まあまあ　９名（５％）、普通　７名（４％）
す　　し　　うまい　184名（96％）、まあまあ　３名（２％）、普通　１名（１％）
コロッケ　　うまい　152名（92％）、まあまあ　12名（７％）、普通　２名（１％）

『普段の食事』関係
自分で作る134名（67％）、家族が作る64名（32％）、宅配弁当利用３名（２％）

『食事のための買物』関係
自分が買出183名（81％）、近所に頼む１名（１％）、移動販売車35名（16％）

『イベントに対する感想』

・震災以来、にぎり寿司を始めて食べました。ラーメン・コロッケも美味しかった
・お友達、お隣さんとの再会の場になりました。新しい友達もできました
・気になる体脂肪も計っていただき、体も軽くなったようです
・生活が落ち着いてからのボランティア、とてもうれしく思います
・家が残った人も来易いようにして欲しい
・沢山のご支援ありがとうございました
・仮設では中々作って食べることがなく美味しくいただきました
・心がほっこりしました。涙が出そうになりました。ありがとうございました
・今回のイベントで皆さんの元気をもらうことができました
・津波以来の美味しいおすしをいただきました
・ときどきイベントがあれば有難いです。皆さんとのふれあいになっていいです
・時々映画などのイベントがあってもよい。いい企画でした
・出かけようと思っても、なかなか出かけないので今日はうれしかった
・テレビで見るより、足を運んでスクリーンで見ると、やはり感激が違う

写真で見る『暮らし再建・なりわい再生プロジェクトイン宮古市』

会場となったグリーンピア三陸

保健所の健康相談会も開催

理容組合のマッサージサービス

すし業組合のすしの提供

中華料理組合のラーメンの炊出し

料理業組合では、当日朝作った、カニクリームコロッケと、キャベツ・ブロッコリ・トマトを提供

大船渡から参加した被災組合員や、宮古市田老地区の被災旅館ホテル組合員の協力を得ながら、被災者一人ひとりに励ましの声をかけながら渡しました。

興行組合の映画「武士の家計簿」上映も

社交事業組合のカラオケバスで歌った方も

宮古市でのイベントチラシです。理容組合員が仮設住宅約500戸に配付しました